

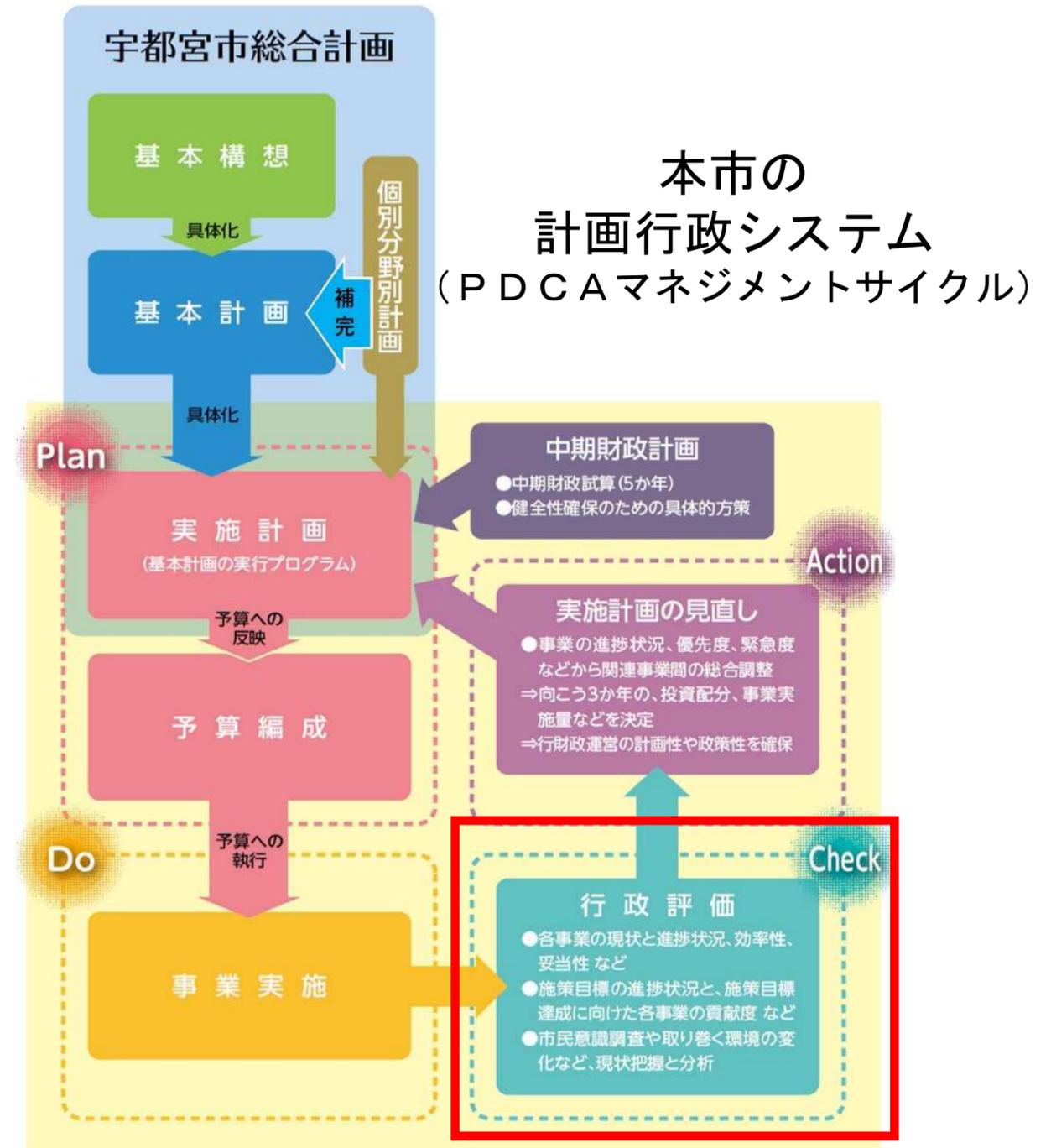
令和7年度「行政評価」を実施し、 市民サービスの更なる向上に取り組んでいます。

本市では、「第6次宇都宮市総合計画」を着実に推進するため、「PDCA（※）」のマネジメントサイクルを実施しており、この度、後期基本計画の2年目となる令和6年度に実施した施策・事業の「行政評価」の結果をとりまとめました。

今回の評価結果については、昨年度に実施した施策において、全53施策のうち、52施策が「順調」・「概ね順調」となりました。

今後、今回の評価結果等を活用し、施策事業の見直しを進め、行財政資源の適切な配分に努めるとともに、市民サービスの更なる向上につなげ、「スーパースマートシティ」の実現に取り組んでまいります。

※ Plan(各種計画等の策定)－Do(事業の実施)－
Check(行政評価)－Action(事業の見直し等)



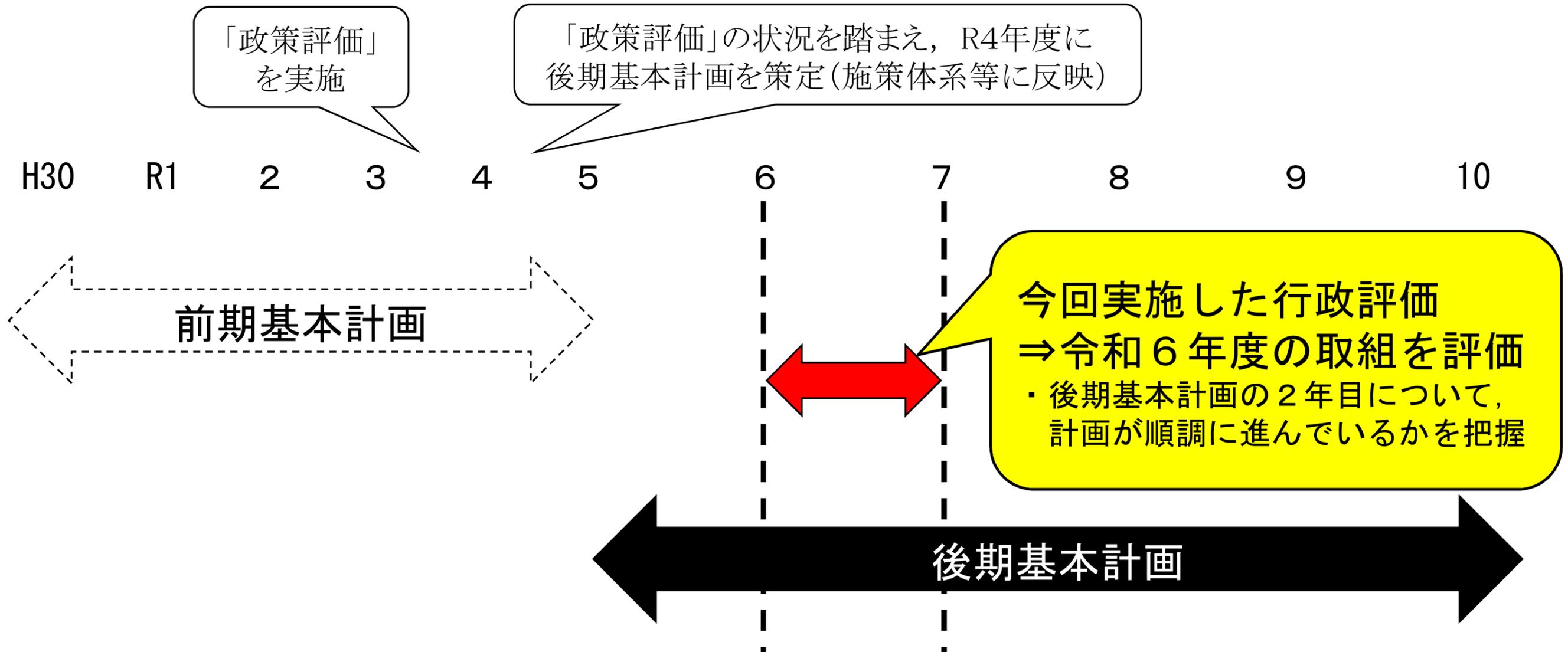
1 本市の行政評価の概要

「第6次宇都宮市総合計画後期基本計画」（以下、「基本計画」という。）で掲げた長期的な目標の達成度を包括的・体系的に評価するため、行政評価は、「政策評価」「施策評価」「事業評価」の3階層で構成する。

評価の種類	概要
政策評価 (5年に1度実施)	基本計画の政策体系に基づき、計画に掲げた政策の目標の達成度や施策の進捗状況などに基づき、評価を実施し、今後の政策の方向性を検討するもの（令和3年度に実施済）
施策評価 (毎年実施)	政策に連なる各施策について、施策の進捗状況や市民満足度の推移などを踏まえて、施策の課題抽出や今後の方向性を検討するもの
事業評価 (毎年実施)	各事業について、施策目標を達成するために何が有効であるかという視点から、今後の取組方針を検討するもの

今回実施した行政評価

2 「総合計画」の計画期間と「行政評価」について



3 「施策評価」の評価方法

- 各施策について、下記①～④の4つの評価指標に基づいて多角的・総合的な評価を実施
- 評価は、点数化による定量的な評価によって客観性を確保
- 「基本計画」の体系に基づき、「令和6年度」に実施した事業を対象として、評価を実施

《評価指標の概要》

評価指標	概要
①産出指標の達成度	「基本計画」に掲げる施策指標の達成度を評価
②成果指標の達成度	
③市民満足度の推移	市民意識調査結果において、各施策の満足度について「満足」又は「やや満足」と回答があった割合（市民満足度）の推移を評価
④主要な構成事業の進捗状況	「基本計画」の「まちづくり好循環プロジェクト」や戦略事業に該当する事業などから、主要な構成事業として選択した事業の進捗状況を評価

令和7年度「行政評価」の結果について

【評価基準】

施策指標（産出指標，成果指標），市民満足度，主要な構成事業の進捗状況の4つの指標をもとに100点満点で点数化し，総合評価を導出

配点	25点	20点	15点
①産出指標の達成度	A 100%以上	B 70%以上100%未満	C 70%未満
②成果指標の達成度	A 100%以上	B 70%以上100%未満	C 70%未満
③市民満足度の推移	A 基準値 +5ポイント以上	B 基準値 ±5ポイント未満	C 基準値 -5ポイント以下
④主要な構成事業の進捗状況	A 2事業以上が 「計画以上」	B 主に4事業以上が 「計画どおり」	C 2事業以上が 「計画より遅れ」
総合評価	順調 (90点以上)	概ね順調 (75点以上90点未満)	やや遅れ (75点未満)

4 「施策評価」結果の総括（詳細は **別紙**）

ア 進捗状況

評価区分	R7 施策数(割合)	点数内訳（施策数）
順調	21 (39.6%)	95点 (9) 90点 (12)
概ね順調	31 (58.5%)	85点 (16) 80点 (11) 75点 (4)
やや遅れ	1 (1.9%)	70点 (1)
計	53 (100.0%)	

【結果の概況】

53施策のうち、「順調」が21施策（39.6%）、「概ね順調」が31施策（58.5%）となっており、ほぼ全ての施策が「概ね順調」以上の評価で進捗している。

【総合評価が「順調」で最高点（総合評価95点）だった主な施策】

施策名	「順調」となっている要因
<p>安心して医療を受けられる環境の充実</p>	<p>【成果指標】 「市内の救急告示医療機関における夜間休日の救急搬送受入れ割合」</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 救急医療対策連絡協議会の機能を活用するなど、救急告示医療機関の連携による二次救急医療体制を確保したことにより、円滑に救急搬送患者を受け入れることができた。 (※R6目標値：89.4%⇒R6実績値：90.0%) <p>【市民満足度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 医療機関等と連携し、救急患者の受入れ体制を確保するなど、市民が安心して医療が受けられる体制を構築することにより、満足度が基準値を上回ったと考えられる。 (※R4基準値：44.6%⇒R6実績値：56.0%) <p>【主要な構成事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 夜間休日救急診療所運営事業 医師をはじめ医療スタッフを適正に確保し従事者への定期的な研修を実施するとともに、発熱患者専用の診察エリアの活用やドライブスルー方式による診療を行うなど、感染症の流行状況等を踏まえながら、患者の状況に応じた適切な診療を実施することができた。 ● 医事・薬事監視指導事務 医療法及び医薬品医療機器等法に基づく立入検査を実施することにより、良質かつ適切な医療提供及び医薬品等の安全性を確保することができた。

施策名	「順調」となっている要因
<p>安心して暮らせる福祉基盤の充実</p>	<p>【成果指標】 「共生型の相談窓口で受け止めた相談が支援につながった割合」</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 保健と福祉のまるごと相談窓口エールU（以下、「エールU」という。）において、複雑・複合化した問題など、受け止めた全ての相談を、ニーズに応じて、各専門分野の相談支援機関や支援策の検討などを担う多機関協働事業者につなぐことにより、適切な支援を行った。 (※R6目標値：100%⇒R6実績値：100%) <p>【市民満足度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● エールUの開設や、生活困窮世帯の自立に向けた相談支援窓口の設置など、各種相談窓口の充実により、満足度が基準値を上回ったと考えられる。 (※R4基準値：28.6%⇒R6実績値：35.3%) <p>【主要な構成事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 相談支援事業 エールUにおいて、保健と福祉に関する相談を丸ごと受け止め、内容に応じて適切な専門の相談支援機関や多機関協働事業者につなぐことができた。 ● 多機関協働事業 エールU等から寄せられた、8050問題やひきこもりなど複雑・複合化した問題があるケースに対して、課題の解きほぐしや調整、多分野の関係機関をマネジメントし、関係機関と連携した支援を行うことができた。

施策名	「順調」となっている要因
<p>MICEの 推進による 魅力と交流の 創出</p>	<p>【成果指標】「MICE消費額」</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「ライトキューブ宇都宮」の開業に加え、「ライトライン」の運行開始などにより、全国的に宇都宮への注目が高まっていることや、(一社)宇都宮観光コンベンション協会のきめ細かなセールス活動とMICE主催者支援により、MICE開催件数が順調に増加する中、特に宿泊を伴う複数日開催の「学会」件数が倍増したことがMICE消費額の増加に寄与した。 (※R6目標値：16億円⇒R6実績値：21.2億円) <p>【市民満足度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● MICEセミナーの開催や市広報紙、PR動画によるプロモーションなどの取組を通し、MICEに対する理解が進んできたことにより、満足度が向上したと考えられる。 (※R4基準値：20.8%⇒R6実績値：33.3%) <p>【主要な構成事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● MICE推進事業 (一社)宇都宮観光コンベンション協会と連携しながら、合同商談会や展示会等への出展、日光市と連携した視察ツアーの実施など、国内外のMICE主催者への直接的なセールスを実施し、MICE誘致を促進した。 ● 宇都宮駅東口地区における賑わい空間創出事業 イベント閑散期にあたる12月から2月において、イルミネーションや大型クリスマスツリー、文字モニュメントを設置し、写真撮影の場を創出するなど、広場のにぎわい作りに貢献した。

施策名	「順調」となっている要因
<p>移住定住支援の充実</p>	<p>【成果指標】「移住定住に関する相談のうち実際に本市へ移住した人の数」</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 東京圏の子育て世帯や20代女性などをターゲットに、充実した子育て環境やライオンラインをはじめとした本市の魅力を積極的に発信する移住定住プロモーションの実施や、市移住定住相談窓口「miya come」における支援メニューの充実など、移住定住施策の充実・強化に取り組んだことにより、市内外における「居住地としての宇都宮」の認知、関心の拡大が図られた。 (※R6目標値：106人⇒R6実績値：332人) <p>【市民満足度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 移住定住プロモーションの展開や移住定住相談窓口と連携したイベントの開催など、多様な媒体や機会等を効果的に活用しながら、本市の「暮らしやすさ」や「子育てのしやすさ」を継続的に周知したことにより、満足度が向上したと考えられる。 (※R4基準値：23.2%⇒R6実績値：30.3%) <p>【主要な構成事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 東京圏から本市への移住・定住等の促進 CM放映など多様な媒体を効果的に連動させた戦略的なプロモーションの展開や市移住定住相談窓口「miya come」における移住相談と組み合わせた「みや暮らし体験事業」などを実施し、本市の魅力や情報の発信をした。 ● 宇都宮ブランド戦略の推進 「餃子犬じゅうべえ」像の設置など、本市の魅力を知ってもらう「認知」の取組と好きになってもらう「信頼」の取組を推進した。

施策名	「順調」となっている要因
<p>公共交通の 利便性向上と 利用促進</p>	<p>【成果指標】 「乗継割引適用件数」</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 令和6年7月に「バスからバスへの乗継割引制度」を導入したことにより、多様な交通手段を円滑に乗り継ぎ・乗り換えできる環境を構築することができた。 (※R6目標値：535件/日⇒R6実績値：990件/日) <p>【市民満足度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 交通系ICカード「totra」を、小学生や中学・高校生相当世代へ配付し、ICカード決済の普及促進を図るとともに、「バスからバスへの乗継割引制度」の導入による公共交通間の「乗継割引制度」の拡充や、通学者を対象とした「ライトライン・バス連絡定期券購入支援制度」を導入するなど本市独自のサービスを提供してきたことにより、満足度が向上したと考えられる。 (※R4基準値:22.0%⇒R6実績値:42.4%) <p>【主要な構成事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 交通ICカード普及促進事業 新生活が始まるタイミングとあわせ、ライトライン・バスの乗り方等を広報紙で周知するとともに、「バスからバスへの乗継割引制度」の導入に合わせ、交通事業者と連携しながら「totraの普及啓発」を行った。 ● 運賃負担軽減事業 令和6年7月、バスからバスへの乗継割引制度を導入し（200円割引）、 「どこから乗っても街ナカまで片道500円以内」を実現した。

【やや遅れとなった施策の要因と今後の取組の方向性】（1施策：総合評価70点）

施策名	「やや遅れ」となっている要因
生涯にわたるスポーツ活動の推進	<p>【算出指標】「地域スポーツクラブの全市域カバー率」</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 新規クラブの設立や既存クラブによる複数地域のカバーに向けた説明会を実施したところであり、目標値には達していないものの、「地区追加補助金」の活用により1地区追加となった。（※R6目標値：55%⇒R6実績値：30%） <p>【成果指標】「地域スポーツクラブ会員数（20歳以上）」</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 総合型地域スポーツクラブフェスタを実施するほか、新たな取り組みとして、スポーツ振興財団による各スポーツ施設での会員獲得に向けた広報を行ったことにより、目標値には達していないものの、会員数は維持となった。（※R6目標値：3,300人⇒R6実績値：1,456人）

【今後の取組の方向性】

身近な場所で気軽にスポーツに親しむ機会を創出するため、新規クラブについては、北西部地域体育施設の整備を契機とした、クラブ設立への機運の高まりに対し、きめ細かな支援を行うとともに、既存クラブについては、令和5年度に創設した「地区追加補助金」の活用促進を図ることにより、カバー地区の拡大に取り組んでいく。

また、地域クラブの活動促進に向け、令和6年度から既存クラブの教室開催を支援している「市スポーツ振興財団」や令和6年度に創設した「みやSOIP※」との連携を図ることにより、ネットワークの強化や指導者の確保につなげるなど、地域に根差したクラブ運営の支援に取り組んでいく。

※産学官の団体等が連携し、スポーツビジネスや新産業の創出などを目指すプラットフォーム

令和7年度「行政評価」の結果について

イ 各施策の総合評価の状況 順調…◎ 概ね順調…○ やや遅れ…△

柱	政策	進捗	点数	政策を構成する施策
I 子育て・教育	全ての子どもが安心して健やかに成長できる社会の実現	○	75	1 結婚や妊娠・出産の希望をかなえる支援の充実
		○	80	2 子育て支援の充実
		◎	90	3 子ども・若者の健全育成環境の充実
		○	75	4 子どもを守り育てる支援の充実
	誰もが夢や希望を持ち必要な教育を受け、安心して生活できる社会の実現	○	75	1 新たな時代に必要となる資質・能力の育成
		○	80	2 誰もが生き生きと学ぶ学校教育の推進
		○	80	3 児童生徒の学びと教職員を支える学校教育環境の充実
		○	85	4 学校・家庭・地域が相互に連携・協働した教育活動の充実
		○	85	5 生涯にわたる学習活動の促進

柱	政策	進捗	点数	政策を構成する施策
I	誰もが生涯を通じてスポーツを楽しむ社会の実現	△	70	1 生涯にわたるスポーツ活動の推進
II 健康・福祉	誰もが心身ともに健康に生活できる社会の実現	○	85	1 健康づくりの推進
		◎	90	2 感染症対策の推進
		◎	95	3 安心して医療を受けられる環境の充実
	あらゆる市民が安心して暮らせる社会の実現	◎	95	1 安心して暮らせる福祉基盤の充実
		○	85	2 高齢期の生活の充実
		◎	90	3 障がいのある人の生活の充実
		○	85	4 共に支え合う地域づくりの推進

令和7年度「行政評価」の結果について

柱	政策	進捗	点数	政策を構成する施策	柱	政策	進捗	点数	政策を構成する施策
Ⅲ 安全・安心	誰もが安全・安心に日常生活を送ることができる社会の実現	◎	90	1 危機に対する体制・都市基盤の強化	Ⅳ 魅力創造・交流	地域資源を守り、活用した賑わいと活力ある社会の実現	◎	95	1 個性豊かな観光と交流の創出
		○	80	2 総合的な治水・雨水対策の推進			◎	95	2 MICEの推進による魅力と交流の創出
		○	85	3 消防・救急体制の充実			◎	90	3 スポーツを通じた都市の魅力向上・地域活性化
		○	80	4 日常生活の安心感の向上			○	85	4 暮らしに息づく文化の継承・創造・活用の推進
		○	80	5 快適で衛生的な生活環境の確保			◎	95	1 都市ブランド戦略の推進
	市民が互いに尊重し、支え合う社会の実現	○	80	1 地域主体の協働によるまちづくりの推進	Ⅴ 産業・環境	着実な定住の促進や移住・関係人口の増加による持続可能な地域社会の実現	◎	95	2 移住定住支援の充実
		○	85	2 市政への理解と参画の促進			◎	90	1 地域産業の創造性・発展性の向上
		○	80	3 かけがえのない個人の尊重			○	85	2 商工・サービス業の活力の向上
		○	85	4 男女共同参画の推進			○	85	3 農林業の生産力・販売力・地域力の向上
		○	75	5 多文化共生の推進					

令和7年度「行政評価」の結果について

柱	政策	進捗	点数	政策を構成する施策
V 産業・環境	脱炭素で循環型、自然共生社会の実現	○	85	1 環境配慮行動の推進
		○	80	2 脱炭素化の推進
		○	85	3 ごみの減量化・資源化と適正処理の推進
		◎	90	4 自然との共生の推進
VI 交通	魅力的で持続可能な都市空間の形成	○	85	1 地域特性を生かした安全で魅力ある都市空間の形成
		◎	90	2 安心して快適な住まいづくりの促進
		○	80	3 空き家・空き地対策の推進
		○	80	4 緑豊かで魅力ある都市景観の保全・創出
		○	85	5 質の高い上下水道サービスの提供

柱	政策	進捗	点数	政策を構成する施策
VI 交通	誰もが快適に移動できる総合的な交通ネットワークの実現	◎	90	1 公共交通ネットワークの充実・強化
		◎	95	2 公共交通の利便性向上と利用促進
		◎	90	3 円滑、快適、安全・安心な道路づくりの推進
		○	85	4 「自転車のまち宇都宮」の推進
行政経営基盤	持続可能な公共的サービスの提供体制の確立	◎	95	1 新たなニーズに対応できる持続可能な行政経営の推進
		◎	90	2 地区行政の推進
		◎	95	3 行政の組織マネジメント力の向上
		◎	90	4 財政基盤の更なる強化

5 評価の総括

施策評価については、ほぼ全ての施策が「概ね順調」以上の評価となっており、後期基本計画は順調に進捗している。

⇒今回の評価結果を踏まえ、各施策・事業の効果をより一層高めていくことで、本市が目指すまちの姿である「スーパースマートシティ」の実現に取り組んでいく。

6 評価結果等の活用

評価の結果については、評価結果から得られた、各施策の進捗状況や課題を令和7年度総合計画実施計画の策定や、令和8年度予算編成等に活用し、後期基本計画を着実に推進していく。